

コンピュータ活用研究部会

コロナ下で実施： オフィスサーベイデータ からの報告

コンピュータ活用研究部会の紹介

部会のメインテーマは、「FM 領域で係わる ICT 新技術の調査」、「CAFM システムの活用事例の調査」、「Eco・Lcc 削減を可能にする ICT 新技術の調査」、「ロボット、AI の最新事例調査」に関する調査研究である。

研究動向としては ICT 技術に注目している。自動認識、自動制御、遠隔計測などは FM 領域でも重要なポイントである。ICT の技術要素は、①インターネット②無線 (Wi-Fi) ③デバイス (スマホ、携帯端末、PC) ④アプリケーションソフト⑤データアナリティクス (データ分析) から構成されており、話題の AI も絡めて調査研究を進めている。

部会の活動は、月 1 回の部会+勉強会開催 (2020 年度は Web 会議)。年 2 回の見学会開催 (2020 年度はコロナ禍で中止) を行っている。また、部会員共著の「FM で活用する ICT システム」を 2017 年 7 月に出版、2021 年度は続編の出版に向けて準備している。

今回は、部会員の森本から、コロナ下で実施したオフィスサーベイ (社員の仕事に対する意識や働く環境を把握するアンケート診断システム) から分析した「コロナ下での変化、在宅ワークの問題点・利点」の発表を行った。

(天神良久)

コロナ下で実施：

オフィスサーベイデータからの報告：発表概要

2020 年 3 月からの新型コロナウイルス感染症対策で、企業の働き方は、否応なく変化した。皆さまも在宅勤務を経験され、オンラインミーティングを行い、ソーシャルディスタンスを実践しておられることと思う。昨今のオフィスづくりの潮流である ABW (Activity Based Working) を標榜して実現されたオフィスでも、2020 年の 2 月以前の在宅勤務の時間比率は、全業務時間の 1% 以下であった (アクティビティ調査データによる)。それが今は様変わりしている。

アクティビティ調査は、インターネットを通して提供されているオフィスサーベイシステムサービスに含まれるひとつの調査手法で、オフィスの在席率・アクティビティ (社員の業務行動) 時間比率・知的生産性指標などを取得できる社員アンケート方式の調査サービスである。

部会長 **天神 良久**
 てんじん よしひさ
 東洋大学 客員教授

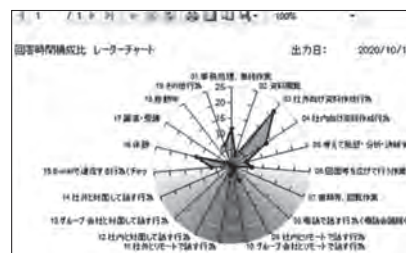


森本 卓雄
 もりもと たくお
 有限会社 アルファ・アソシエイツ
 代表

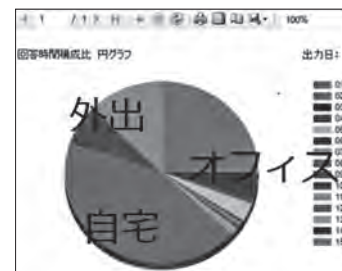


ニューノーマルなど、さまざまな表現で with コロナの働き方の特徴が表現されている。では実際に、アクティビティ (社員の業務行動) データに基づいて見てみると、「コロナ下の働き方は以前とどう変わったのか?、そして、その望ましい面と課題は何なのか?、また、オフィスワークと在宅ワークの違いは?、アフターコロナのオフィス/在宅ミックスをどのように考えればいいのか?等々」アクティビティ調査の実施に基づく統計で検証してみる。

発表では、最初に、データを理解していただくための予備知識として必要な範囲の、オフィスサーベイシステムの内容を紹介した。次に、ケースワークとして、ある会社 (A 社) を題材に、2年前と現在で、オフィスの在館率・アクティビティ (業務行動) 時間比率がどう変わったかを、データを見ながら解析した。続いて同じく A 社を題材に、現在のオフィスワークと在宅ワークの、アクティビティ (業務行動) 時間比率の違い・知的生産性指標の違いを、データを見ながら解析した。最後にこれらの解析を通して得られた、在宅ワークの問題点・利点を提示した。(森本卓雄) ◀



図表1 アクティビティレーダーチャート



図表2 場所別時間比率